

nano 工務店の経営術

vol.33

技術力を磨き続けてオンラインに 佐藤工務店

[埼玉県上尾市]

今回は高性能住宅で堅実な支持を得ている埼玉県上尾市の佐藤工務店を紹介する。構造計算や温熱計算を自分で行い、社員大工が断熱気密や防水、通気などを丁寧に施工する。技術力の高い同社の歩みと現在の取り組みを見ていく。

佐藤工務店代表の佐藤喜夫さんは1959年生まれの2代目。大学卒業後、地元のゼネコンに入社。現場監督として主にRC造の現場を担当した。6年間勤めた後に実家の工務店に戻った。当時、同社はゼネコンの下請けのRC造と自社で受注した木造住宅の双方を手掛けていた。佐藤さんが戻ってから間もなくバブルが弾け、ゼネコンの仕事は減り、木造住宅が仕事をの中心になった。

構造計算を取り入れる

そんなときに阪神淡路大震災が起きた。報道を見ながら建築に携わる人間として何ができるのかと自問自答した。佐藤さんは耐震改修に力を入れた。木構造を学び、構造計算ソフトを導入した。

その後同社の木造住宅は、基礎は佐藤さんのゼネコン経験に基づきRC造に準じた仕様でつくられていたが、軸組については棟梁の勘と経験で梁の断面などが決められていた。佐藤さんは耐震性能が数字で表現できることに驚きを覚えた。そして大地震に耐える木造住宅には構造計算が不可欠だと考え

この連載は、正社員3人程度（大工などの職人は除く）の最少人数で安定した収益を得ている工務店を取材し、経営手法や人気の秘密を探る。そこには縮小化する市場のなかで最適化を図るためにヒントが隠されているはずだ。

取材・文 大曾力



佐藤喜夫さん。家業の象徴である有限公司にこだわる



1. ネオマーフィムの外張り断熱による30分耐火仕様の板張り外壁（N部）
2. 節式工法によるスライスレンガを張った外壁を併用（N部）
3. 開放的なLDK。許容応力度計算に裏打ちされた空間（N部）
4. 小屋裏の様子。外張り断熱ならではの構造をあらわにした空間（N部）

た。ちょうど代替わりの時期であったことから、同社の家づくりは性能重視の方向に変わっていた。

2000年に佐藤さんは自宅を建て替える。暖かい家にしたいと考え、情報収集を行つた。その過程でソーラーサーモット工法を知り、現場を見学した。佐藤さんは面材で躯体を覆い、その外側で断熱気密や通気、雨仕舞いを完結させる外張り断熱に合理性を感じた。すぐに同社の住宅に外張り断熱を取り入れた。

同社の住宅は着実に進化していくが、一方で見込み客にその価値を伝えるのに苦労していた。競合する他社の工事費に無理に金額を合わせたことで利益が残らない現場もあった。いい家とは何か。その価値をどのように伝えるか。佐藤さんは思い悩んだ。

長期優良住宅に取り組む

そんなときに始まったのが長期優良住宅の制度だ。

佐藤さんはこれら的内容をブログでこまめに発信した。専門性の高い記事はニッチ層に強く響く検索キーワードを含む。自然リテラシーの高い見込み客が集まって

ぐに長期優良住宅に取り組み、建て主にその価値を伝えられた。補助金の後押しもあって建て主にもその提案は受け入れられた。長期優良化リフォームの制度ができるとこれも積極的に利用した。改修は既存建物の状態がまちまちなためすべてが特殊解になる。社員大工を抱える強みが発揮された。

東日本大震災後には災害対応の必要性を強く感じ、太陽光発電を搭載したZEHに取り組んだ。災害に強く、30年間メンテナンスが不要で快適に過ごせる住まい、独自の家づくりのかたちができてきた。

これらの過程で技術的な蓄積を重ねた。構造計算や温熱計算を自分で行い、基本性能を数値で抑える。耐震等級3、断熱性能はG2以上が基本だ。加えて防水と通気、耐水防虫、シロアリ対策のための資材を吟味し、納まりを標準化。これらを社員大工が確実に施工する。

同社は時代ごとのテーマに直に取り組んできた結果、地域のなかで抜き出た技術力をもつ工務店になつて行った。現在は受注も安定し、年間5棟の新築住宅と1棟の性能向上リノベーションを手掛ける。

だが佐藤さんは歩みを止めない。準耐火30分や45分

| 有限公司 佐藤工務店 | |
|----------------|--|
| ●会社名: | 有限公司 佐藤工務店 |
| ●代表者: | 代表取締役 佐藤喜夫 |
| ●設立年月: | 開店53年6月1日 |
| ●住所: | 埼玉県上尾市東町1-2-13 |
| ●今年の売上(目標): | 1.8億円 |
| ●社員の要務分担: | 経営課理1人、設計2人、工事4人(大工を含む) |
| ●社内に所有している資格: | 一級建築士、2級建築士、完建士、一級建築施工管理技士、福祉環境指導士、二級建築施工管理技士、BIS新規施工技術者、CASEEE部門評議会員、バッジン技術研究会、日本エネルギー・パス協会 |
| ●使用している建築系ソフト: | ARCHITREND ZERO、ホームズⅡ、STRIDESIGN |
| ●所属団体: | 埼玉建築工業会、JPN-全国工務店協会、新住協、ささしままえづくりネットワーク、さまたて新技術検査会議、バッジン技術研究会、日本エネルギー・パス協会 |

THE SHINKEN HOUSING

設計を早期にまとめる意味

大型パネルは工場でパネルに多くの部材を集約するため、通常より1カ月半ほど設計を前倒して進めることになる。現場では軽微な変更が効かないが、着工時に設計が最終まで決定しているので現場はスムーズに進む。断熱気密、防水などの施工品質は高い。また完工期限により年間で1棟多く手掛けられる感触がある。今後、大型パネルを標準にする予定だが、パネルのショット点のつまり屋根パネルの構成など改良を重ねて、より高性能化と省力化を図っていく予定だ。

国産材を大型パネルに適用

木造大型パネルは全工法が節約となる。ドリフトバンを確実に施工するために柱は寸法誤差を±1mmに抑える必要があり、通常は隼人柱が用いられる。ここでは新しい試みとして木村木材工業が提供するスギの4面薄削り材の柱を使用した。

4面削り材は寸法精度が高く、表面削り、内部削りともに少ない。モルダを掛ける際に削り落すことで±1mmの規定を満たす。柱の使用予定は94本だったが交換材が出了たために98本をプレップ工事に納入。集成材柱と寸法なし精度だったので交換材は出なかった。同社では柱材にはヒノキを用いていたが、木材の価格は同程度であった。



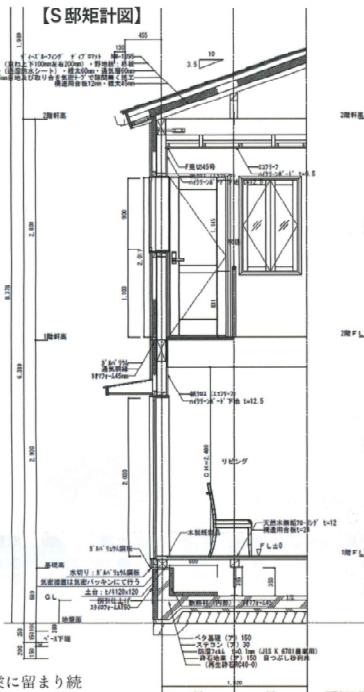
1.2階の壁パネルの取り合い。気密テープが貼られると完全に一体となる
屋根パネルを室内側から見る。通気層まで一体化するために断熱材は垂木間に落とし込んでいる



2800万円程度になる。これを2300万円程度に抑える提案だ。所得が少ない若い世帯に高性能住宅を広げたいとの思いがある。

同社の常に技術的な進化を求める姿は小さな工務店が地域に根ざして長く活動するための大変なポイントだ。どんな技術もいざれは一般化する。進化を止めると多くの工務店のなかで埋没してしまう。小規模工務店にとっては致命的だ。

その一方で佐藤さんは企



業化せずに家業に留まり続けることも大事にしている。

何かあったら45分で駆けつける。このことを40近く前からOB客に約束している。営業エリアを絞り、社員大工がいるから可能のことだ。

の約束が履行されてきたことが厚い信頼になっている。そして下職も地元の職人で固め、廃業などを除いて継続

して付き合う。

そしてOB客や職人との密接な関係。同社の活動は小さな工務店が生き残るためにエッセンスが詰まっている。

大好評中「新建ハウジング」2021年1月10日発行新春特集号20・21面の詳細事例もぜひご覧ください

こんな課題を持つ経営者必見!

組織を変える一枚岩戦略会議 チームコーチングで組織を一枚岩!

- 組織を一枚岩にしたい
- 経営理念やビジョンが浸透していない
- 次世代のリーダーが育っていない
- 社員の主体性を感じない
- 事業承継に不安がある
- 属人的な仕事になっている

導入工務店事例 >> 小林創建

開業90周年、2,000棟以上、「心地よい空間」の要望

など家づくりの想いを叶えていく存在。

実績 30戸→44戸 46.7%UP!

品質コンテスト全国大会 第1位受賞!

代取取扱店長・小林創建さん(写真左)、コートヤード田代商店さん(右)

まずは無料トライアル

参加人数:最低3~6名

時間:約3~4時間

対象者:経営陣および幹部候補

※交通費別途(WEB会議も可能)

特典!

30年の実績

瓦屋根の換気には「リンピア」を!
性能試験データ、カットサンプルをご請求下さい。

瓦屋根の「リンピア」を!

性能試験データ、カットサンプルをご請求下さい。

TD HOME TDホーム加盟店募集

13タイプの商品ラインナップ

2人~5人体制で年間4棟~16棟の推奨を、効率よく

TD HOME TDホーム加盟店募集

13タイプの商品ラインナップ

入会セミナー開催オンライン(ZOOM)

資料請求・セミナー申込